

2018年JAF北海道ラリー選手権第5戦 2018年JMRC北海道MARUIラリーシリーズ第5戦
TOYOTA GAZOO Racing Rally Challenge 2018 joint cup北海道シリーズ第5戦
EZO SUMMER RALLY 2018 [JAF公認No.2018-8005]

開催日：7月29日 開催場所：北海道 格式：準国内 主催：EZO [クラブ登録No.加盟01086]

フォト／加藤和由 レポート／JAFスポーツ編集部

山田健一インプレッサがMIXの一戦で今季初優勝



舗装とグラベル、オールラウンドな速さが求められるMIXラリーの一戦を制したRA-5クラスの山田健一／瀧正憲組。

計

7戦で行われるJAF北海道ラリー選手権は終盤戦に突入、第5戦が石狩市・当別町のエリアで開催された。今年の選手権シリーズは開幕から2戦はお馴染みのスノーラリーが続き、第3戦はターマック。第4戦は今季初のグラベルとなり、迎えた今回はミックスとなる。終盤2戦はいずれもグラベルだ。

今回の1戦はセクション1でまずグラベル3.11km、ターマック5.37kmを走ってサビスイン。午後のセクション2は再びグラベル

3.11kmを走った後、逆走となり、距離が縮まったターマック4.32kmを2度走ってフィニッシュという構成だ。

ここまで4戦3勝と、全日本ダートラップドライバーの実力を見せつけている松波克知選手が圧倒的な優勢を保って乗り込んできたRA-5クラス。松波／高橋美悠組は、慣れない舗装のSS2こそ山田健一／瀧正憲組にベストを譲るも、グラベルのSS1とSS3はしっかり後続に大差をつけてリーダーに躍り出て、舗装SS2本を残して2位の山田組に7.1秒のリード

を築き、逃げ切り態勢に入る。

しかし好事魔多し。SS4で松波組はまさかのコースオフを喫して今季初のリタイアとなってしまふ。実は松波組がコースオフしたコーナーは、そのトリッキーな形状から数年前に使用された際もスピンやコースオフが続いた"いわくつきのコーナー"として一部の経験者には知られていた場所。思わぬラリーの罠に捕まった形となった。最大のライバルを失った山田組に迫るクルーは現れず、山田組がそのまま首位を守ってフィニッシュ。今季初優勝をもぎ取った。

「GRBも3年目で慣れては来んですが、今年はダンパー変えて一からセットアップやり直してるんです。でもなかなか噛み合わなくて勝てないラリーが続いたところに前回のラリーでエンジン壊しちゃって、今回も本調子じゃなかったんで上りのグラベルではきつかったですね。松波選手がコースオフした所は見た目よりクセがあって危ない所で僕もハーフスピンしました。残り2戦も勝つしかないんで集中します」と山田選手は気を引き締めていた。



1.RA-3クラス金藤公人／宇野祐哉組はSS1の遅れが響き、2位に甘んじた。2.井土卓治／松川萌子組がRA-5で2位入賞。



はスラロマーでもある松倉拓郎／岩淵亜子組が硬軟両SSでベストを奪って快勝。**8.**JAF北海道ラリー選手権・JMRC北海道MARUIラリーシリーズ参加者の皆さん。**9.**RA-5で3位入賞の俣野実／伊勢谷巧組。**10.**RA-3で3位入賞の井土正高／竹下紀子組。



TGR joint cup北海道シリーズ／**11.**C2クラスは杉浦一也／花井勝組が優勝。**12.**本州から遠征のクロエリ／梅本まどか組がC1クラスを制した。**13.**E3クラスはスターレットの田辺紘一／八巻慎太郎組が優勝。**14.**E4クラスのAki HATANO／渡辺千尋組が総合ベストのタイムで優勝。**15.**今回最多のエントリーを集めたC3クラス上位入賞の皆さん。**16.**E2クラスは全SSベストだった若松仁／城戸大作組が快勝。**17.**C3クラスは石井宏尚／加茂新組が前半で築いたマージンで逃げ切った。**18.**E1クラスは国分虎郎／佐竹尚子組が優勝。**19.**C3で2位入賞の仲川雅樹／宮地一喜組。**20.**C2で2位入賞の洪銘蔚／安藤裕一組。**21.**C3で3位入賞の佐藤友治／猿川仁組。**22.**堀田啓介／小林育美組はC1で2位入賞。**23.**小林直広／小林紀子組はE3で3位入賞。**24.**小林佑輝／植田涼介組はE3で2位入賞。**25.**稲垣和也／坂田智子組はE3で3位入賞。



一方、RA-3クラスは金藤公人スイフトと松倉拓郎デミオがスノー2戦は星を分け合ったが、第3、4戦は金藤スイフトが2連勝。松倉選手は開幕戦と第3戦の欠場もあってポイント的には不利な立場だ。しかし今回は1ヶ月前の全日本ラリーカムイでも速さを見せた松倉／岩淵亜子組が絶好調。グラベルはもちろん、舗装もスラロマー上がりということもあってライバルに隙を与えず、快勝した。

「カムイの時よりも、ちょっとバネを柔らかい方向に変えたグラベル仕様で走りました。舗装

はフロントだけタイヤを変えました。シリーズは残り2戦勝っても厳しいので、まだセッティング中のこのクルマをしっかりと終盤戦で詰めていきたいですね」と松倉選手。デミオ15MBの可能性を見据えていた。

また今回の一戦にはTGRラリーチャレンジのjoint cup北海道シリーズも併催され、本州からの遠征組合わせ31台が参加と賑わいを見せた。特に活躍が目立ったのは女性陣で、C1クラスでは本州のTGRラリーでも勝星を重ねているクロエリ／梅本まどか組が優勝。グラ

ベルSSでは2番手に甘んじたものの、得意の舗装SSではベストを連発して逃げ切った。

C2クラスでも女性ドライバーの洪銘蔚選手がSS1、SS2と連続ベストで上がり、優勝の期待が高まったが、続くSS3で大きくタイムロス。3.1秒弱かず、2位でラリーを終えた。参加8台と今回最多を数え、激戦区となったC3クラスは、SS1でぶっちぎった鍋嶋一憲／逸見美央組をはじめ3台がリタイヤするサバイバルな展開となったが、コンスタントに上位タイムを刻んだ石井宏尚／加茂新組が優勝を飾った。